小学校低学年の部～基本打ちの試合　館林邑楽剣道連盟常任理事会にて確認内容

○各地区・道場において、下記の内容で子ども達に対して正しくご指導願います。

1　試合者の動き、審判の役割、元立の位置等

本部席

試合者

○「試合者が会長に尻を向けない」との配慮から、他の試合場と異なり、試合者・審判共に９０度回転する。

○　試合者は、紅白のたすきをつける。

○　試合者は、「垂れと胴」を付けるが、「小手」をはめない。（手元を見るため）

○　試合者は主審の方に向かい、２人がほぼ同時に前後に移動して、元立ちにかかる。

◎　試合者の「基本技術」だけでなく、「服装、態度、礼、声、　蹲踞、帯刀の仕方、下がり方」等も審査対象とする。

●　●　●（紅の次の試合者が並んで待つ）

②（副審）

●（試合者　紅）×　　△元立ちA

①
（主審）

●（試合者　白）×　　△元立ちB

※　副審は、試合者が見やすい場所に随時移動する。

③（副審）

●　●　●（白の次の試合者が並んで待つ）

審　判

○　主審は定位置にいて、２人の試合者に声かけをして、試合を進行する。

○　副審は、試合者の手足の動きが見える場所に、試合者と平行に移動して良い。

○　審判は、３試合したら移動し、９試合で交代する。交代の位置は②の場所。

○　「判定宣告」は、試合者の微妙な実力の差に対処するため、日頃自分が指導している試合者に対する審判はやりづらいが、審判主任の指示した順序で、全試合をローテーションする。

○　準決勝・決勝の審判は、自分の指導している選手がいる場合は交代する。

元　立

○　元立は、３組６人で対応し、原則２人で１回ずつ交代する。

○　元立は、選手が背丈の低い小学生低学年であることを考慮し、面打ちなどでは頭を下げて、打ちやすい姿勢をとる。

2　主審の声のかけ方

①　試合者は自分で試合場に入り、２人がそろった時「礼」と言い、「立礼」させる。

※試合者は、開始線まで出て、蹲踞して待つ。

②「切り返し　始め」

※　試合者は「左右面の切り返し」をする。

正面打ち～右面から前進４回～後退５回～間合いを切って正面打ち～~~体当たり~~～＜２回目の切り返し＞～正面打ちで抜ける～面を打って戻る～構えて静止する。

※試合者が小手をはめてなく、低学年であることから、安全のために「体当たり」を削除。

③「面打ち３本　始め」

※　試合者は、面打ち３本が終了したら主審側に立ち、立ち会いと構えて静止する。

④「小手・面打ち３本　始め」

※　試合者は、小手・面打ち３本が終了したら、主審と反対側に立ち、構えて静止する。

⑤「判定・勝負有り」

※　試合者は「判定」宣告後、蹲踞してから立ち上がり、前向きで戻り試合場外に出る。